

ライフデザイン通信

2019.12
Vol.144

「2015年～2045年の大阪市の区部人口変動」を考える

大阪市の2015年人口は269.1万人、30年後の2045年には241.1万人、28万人の減少が予測される。その中で24区の2015年から2045年の30年間の人口変動を調べてみました。

2045年の政令指定都市の特徴は、中心市街地に人口集約が進む。最も明確に現れるのは大阪市！

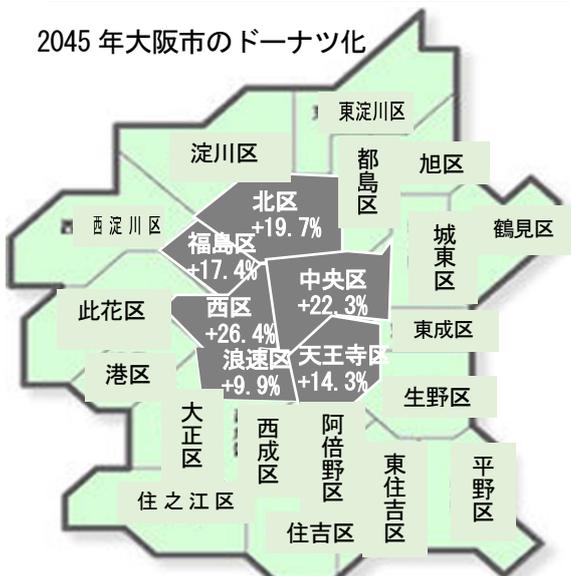
大阪市では逆ドーナツ化が進む！！

■大阪市区別の2015年・2045年の人口 単位：千人

	総人口		増減	増減比	75歳以上人口		増減	増減比
	2015年	2045年			2015年	2045年		
1 都島区	104.7	102.8	▲1.9	▲1.8%	11.5	18.5	7.0	60.4%
2 福島区	72.5	85.1	12.6	▲17.4%	6.8	11.1	4.3	63.3%
3 此花区	66.7	63.1	▲3.6	▲5.3%	8.2	10.8	2.6	31.5%
4 西区	92.4	116.8	24.4	▲26.4%	6.7	14.9	8.3	124.0%
5 港区	82.0	56.3	▲25.7	▲31.3%	10.8	12.6	1.8	16.9%
6 大正区	65.1	41.6	▲23.5	▲36.1%	9.1	11.5	2.4	26.5%
7 天王寺区	75.7	86.6	10.9	▲14.3%	7.4	13.7	6.3	85.4%
8 浪速区	69.8	76.7	6.9	▲9.9%	6.0	8.9	2.9	48.9%
9 西淀川区	95.5	79.9	▲15.6	▲16.3%	10.8	15.7	4.8	44.6%
10 東淀川区	175.5	153.6	▲21.9	▲12.5%	19.5	27.4	7.8	40.2%
11 東成区	80.6	75.7	▲4.9	▲6.0%	10.2	14.3	4.0	39.5%
12 生野区	130.2	93.1	▲37.0	▲28.4%	20.6	24.6	4.0	19.4%
13 旭区	91.6	79.0	▲12.6	▲13.8%	13.5	17.3	3.8	28.5%
14 城東区	164.7	144.9	▲19.8	▲12.0%	19.6	28.0	8.4	42.8%
15 阿倍野区	107.6	102.1	▲5.5	▲5.1%	14.0	18.8	4.8	34.7%
16 住吉区	154.2	130.8	▲23.4	▲15.2%	21.2	27.1	5.9	27.9%
17 東住吉区	126.3	92.3	▲34.0	▲26.9%	18.6	20.3	1.7	9.1%
18 西成区	111.9	58.5	▲53.3	▲47.7%	19.7	13.2	▲6.5	▲33.0%
19 淀川区	176.2	173.8	▲2.4	▲1.4%	18.1	27.5	9.4	51.8%
20 鶴見区	111.6	101.2	▲10.4	▲9.3%	11.7	18.4	6.8	57.9%
21 住之江区	123.0	86.6	▲36.4	▲29.6%	15.8	22.5	6.7	42.5%
22 平野区	196.6	148.3	▲48.3	▲24.6%	26.6	35.4	8.9	33.4%
23 北区	123.7	148.0	24.3	▲19.7%	10.8	19.4	8.6	79.6%
24 中央区	93.1	113.8	20.8	▲22.3%	7.1	13.1	6.0	85.1%
大阪市	2,691.2	2,410.8	▲280.4	▲10.4%	324.2	445.0	120.8	37.3%
大阪市	2015年		75歳以上人口比 12.0%		2045年		75歳以上人口比 18.5%	

データ：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年

2045年大阪市のドーナツ化



- 大阪市の人口は2045年280千人減少、一方で増加となる区は、JR環状線内側に位置する西区26.4%増、中央区22.3%増、北区19.7%増、福島区17.4%増、天王寺区14.3%増、浪速区9.9%増
 - これら以外の全ての区は人口減少、西成区は47.7%減少する
- 75歳以上人口でみると、
- 大阪市全体で2045年には75歳以上人口が121千人増加する。
 - 西成区のみ6.5千人減少する。増加の多い区 上位は淀川区9.4千人、平野区8.9千人、北区8.6千人、城東区8.4千人、西区8.3千人、東淀川区7.8千人、都島区7.0千人、鶴見区6.8千人、住之江区6.7千人・・・。



「良書ご案内」

書籍名	売上を、減らそう。	著者名	中村 朱美
出版社名	ライツ社	発行年月	2019年6月

100食限定、ランチのみ、国産牛ステーキ丼専門店、10坪14席の「佰食屋」が2012年冬に京都で誕生した。営業時間は11時から14時30分の3時間半、従業員は18時まで退勤する。オープンして3か月後、はじめて100食を完売、名実ともに「佰食屋」になった。店が掲げる目標はただ1つ「1日100食を売る。そしてそのなかで来られたお客様を最大限幸せにすること。」だ。

100食限定により ①早く帰れる ②フードロスがほぼゼロ ③経営が究極に簡単になる ④どんな人も即戦力になる ⑤売上至上主義から解放される。というビジネスモデルが生み出された。

著者が飲食店を始めるにあたり「従業員が働きやすい会社」であり且つ「会社として成り立つ経営」の両立を基本とした。そして「働きやすい会社」とは「家族みんなで揃って晩ご飯を食べられること」を条件とした。その原点は、「脳性まひの息子を産んだ私でも働ける会社」をイメージしたものである。

飲食業界は開店から3年後の廃業率が約7割あるといわれている。労働人口減少の中で、より深刻な人手不足に直面する飲食業界である。佰食屋の成功は、飲食業としての成功というよりも、むしろ「働き方改革」の成功といえるものだ。多くの人が人生の大半を仕事だけに費やしてしまっている。「早く帰れる」はお金と同じくらい魅力的なことであり、事実スタッフの人生は変わった。

2018年6月 大阪北部地震、続く7月には西日本豪雨、9月は台風21号の被害を受ける。お客様が半減し、3か月赤字が積み上がり、心理的に追い詰められ閉店の危機を迎える。

著者は苦しい中で「1日50食しか売ることができなかった。」という考えから「50食は売れた。50人のお客様は来てくれた。」という発想に転換します。「1日限定100食」を2分の1にするために収益構造（食材、家賃、人件費等）の見直しを行う。そして1店舗も閉鎖させることなく、危機を乗り越えた。生き残るためのビジネスモデル、「佰食屋1/2」を実現させた。

災害はこれからも毎年やってくる。人口は減少する。飲食業の働き手は少ない。消費はこの先も低迷するだろう。この現状に左右されないよう、企業が生き残っていくにはどうしたらいいのか？

著者がいつも頭に置いていることがある。「どんな状況になっても稼げる仕組みをつくること。」そして「従業員にとってどんな働き方が一番幸せになれるのか。」

人生にとって極めて「大切なこと」＝「働き方」は人生そのものといえます。「働き方を変えて人生を変えよう」と著者は熱く語っている。

岩城

編集後記

今年は平成から令和へと元号が変わり、日本国は新たな歴史の幕あけとなりました。災害の多くなった日本において、来る年は日本国の平和を、世界では世界の平和を強く願いながら、皆さまも良い歳をお迎えください。来年もよろしくお願ひ致します。

発行所：株式会社ライフデザイン研究

所在地：〒550-0011大阪市西区阿波座1-13-13 西本町中央ビル10F

Tel 06-6538-8806 Fax 06-6538-8807 HP) <http://www.ldlabo.jp/index.php> 編集人 河合

